

9-3			
主題	泡と緑茶のスキンケア 高齢者に優しい皮膚の「清潔」「保護」「保湿」		
法人名	社会福祉法人 浴風会		
事業所名	南陽園		
発表者(職種)	山崎かおり(サービス課長)		
共同研究(実践)者	小河原恵子(介護職員)、金山耕一(介護職員)、土井香介(介護職員)		
電話	03-3334-2159	FAX	03-3334-1745

今回発表の事業所やサービスの紹介	浴風会は、大正14年に関東大震災の被災高齢者の援護を目的として設立された法人で、医療・介護・福祉の総合的なサービスを地域の方々に提供しています。南陽園は昭和46年、定員100名の杉並区内初の特別養護老人ホームとして開設し、平成3年に5階建てに改築されました。定員254名(内ショートステイ12名)の従来型施設です。
------------------	---

<p>《1. 研究(実践)前の状況と課題》</p> <p>高齢者の皮膚は乾燥し易く、軽い物理的的刺激で内出血による紫斑形成や表皮剥離を引き起こす。当園のご利用者も同様であり、皮膚トラブルの軽減を図るために保湿剤の塗布等を続けていたものの、なかなか改善には至らない状況であった。</p> <p>《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》</p> <p>法人内病院で開催された皮膚・排泄ケア認定看護師によるスキンケア研修会への参加をきっかけに、職員全体でスキンケアの向上に取り組み、ご利用者の皮膚の状態を改善することができると考えた。</p> <p>《3. 具体的な取り組みの内容》</p> <p>1. スキンケア悉皆研修を開催し、皮膚の構造と機能、高齢者の皮膚の特徴を理解する。 2. 皮膚の「清潔」「保護」「保湿」に有効な石鹸、保湿剤を選定し、効果的に使用する。 3. 消臭・抗菌効果がある緑茶殻を活用する。</p> <p>《4. 取り組みの結果》</p> <p>石鹸を泡にして洗浄成分をむらなく広げ、こすらずに洗身することで、石鹸の使用量が減り、皮脂膜の取りすぎが防げ、湯上りの皮膚がしっとりとしてきた。 保湿剤を皮膚溝に沿って塗布することにより</p>

<p>保湿効果が高まり、乾燥肌が改善した。 緑茶殻を乾燥させ、拘縮した手指間、脇下に使用することで、蒸れ、臭いが消えた。</p> <p>《5. 考察、まとめ》</p> <p>スキンケアの取り組みにより、皮膚の乾燥、蒸れの改善が図れた。さらに、褥瘡高リスク者の褥瘡予防にも繋がっている。 スキンケアとともに、ご利用者の皮膚に接する際の介護技術の向上に対する意識が高まり、内出血も減少傾向にある。</p> <p>《6. 倫理的配慮に関する事項》</p> <p>本ポスター発表を行うにあたり、発表の目的・方法、写真は本発表以外には使用しないこと、不同意による不利益がないことを、ご本人及びご家族に口頭で説明し、同意を得た。</p> <p>《7. 参考文献》</p> <p>「WOC Nursing」平成15年1月号 医学出版 「見直そう、褥瘡ケア」田中秀子監修 2013年 日本看護協会出版会 「緑茶パワーと健康のサイエンス」2004年 伊勢村護、藤森進著 アイ・ケイコーポレーション</p> <p>《8. 提案と発信》</p> <p>地域で生活される高齢者に向けての出前講座でスキンケア講座を開催し、少しでも多くの高齢者の皮膚トラブルの減少に役立てていく。</p>
--